

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会	会議場所	第1委員会室
		担当職員	坂田
日 時	平成26年8月22日(金曜日)	開 議	午前 11 時 48 分
		閉 議	午後 0 時 18 分
出席委員	立花 眞継 苗村 井上 藤本 西口 竹田 (欠席 酒井)		
事務局	阿久根副課長、坂田		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 - 名	議員 - 名( )

## 会 議 の 概 要

### 1 開会

### 2 事務事業評価対象事業の論点整理

#### <立花委員長>

決算事務事業評価対象事業の論点整理を行う。浄化槽設置整備事業は、平成25年度の予算特別委員会指摘要望にある「合併浄化槽設置に伴う助成においては、予算積算根拠で示された設置予定数を達成するため、一層の普及促進に努めること」を確認することとし、論点として 目標設置基数に対する実績は。 上乘せ補助による効果は。 現状のままで目標が達成できるのか。 今後の事業展開や方向性は。 とする。何か意見はあるか。

#### <全員了>

#### <立花委員長>

こども医療費助成経費については、平成23年度決算で事務事業評価を行った結果、拡充を求め「国の制度を鑑み、子どもの医療費助成制度の拡充を求める請願（平成22年12月定例会採択）の趣旨実現に向け拡充を図りたい」とし、平成25年度当初予算で通院医療費の助成対象が小学校修了前から中学校修了前までに拡充された経過がある。論点としては、小学校就学から中学校卒業までの通院助成について、実績と目的に沿った事業の方向性。ということでもいいか。

#### <苗村委員>

抽出理由で挙げているが、3千円の自己負担について状況を把握する必要がある。3千円を少し超えたぐらいでは申請をしていないと聞くので、申請件数がどれぐらいなのか確認をする。また、一人ひとりの制度のため、子どもが複数いる場合は合算で3千円を超えても該当しない。そのことを踏まえて、3千円の自己負担がどうなのかを検証する。

#### <藤本委員>

京都府は通院助成の無料化を中学校卒業まで拡大すると発表している。それを受けて、本市の方向性について確認する。

#### <西口委員>

義務教育の間の医療費を無料化することについて、以前から議論を重ね委員会の考えは一致していると思う。今回の事務事業評価では、更に充実の方向に向かっていくことを共通認識しておけばどうか。

#### <竹田委員>

西口委員の意見は請願の趣旨であり、当然大事であるが、事務事業評価として事業

の内容をしっかりと分析した上で行う必要がある。

<立花委員長>

竹田委員の意見のとおり、金額や件数の問題などを確認した上で、委員会で検討するのが大前提である。次に地域生活支援事業は事業数が多い。昨年度に高齢者生活支援経費を評価した際にも事業数が多いため説明が中心となったこともある。今回の進め方について、正副委員長で検討した結果、一つひとつの事業を細かく行うのではなく、事業を大きく相談・助成・給付に分類し、相談事業をまとめて報告を受け、その上で業務委託の具体的な内容について委託先と情報を共有して連携ができているのか。地域に障害者の人がどれだけいて、支援の必要な人に広く十分な施策が行われているのか、を論点とすればどうか。また、対象者は障害者手帳を持っている人だけなのか、手帳を持っていない軽度の人も含めるのか、事業のPRが十分に行われて周知徹底ができているのか、希望者全員が相談等、受けられているのかを明らかにした上で、論点、 が検討できればと考える。

<井上委員>

確かに個別の事業を具体的に訊いていたら切りがないと考えていたので、委員長の提案に賛成である。

<眞継副委員長>

執行部からの説明をどのように受けるのか、具体的にイメージしておいた方が良いのではないか。

<竹田委員>

提案者の井上委員から、具体的な事例があるのであれば、提案を求めてはどうか。

<井上委員>

専門の相談員が何人常駐し、どのような相談体制で連携がされているのか、どんな相談も一本化してワンストップで解決できるような体制の仕組み作りがされているのか。また、委託先は公平に事業所ごとに行えているのか。

<竹田委員>

今の話からすると、資料の一番上と二番目の相談業務について、重点的に事業評価を行えば良いと考える。

<苗村委員>

相談事業はそれで良い。精神障害者等の居場所づくりや地域生活を支援するための事業について、作業所などに委託して行っている部分は、それなりに実績を重ねていると思うが、地域の小規模事業所の状況は専門職員も少なく、ボランティアで行っていたり、赤字の状況である。特に精神障害者の部分は法的な整備もされていない状況であり、活動実績等、実態がどうなのかを明らかにしていきたい。

<立花委員長>

今の意見を踏まえて、効果的な事務事業評価を行う。これで分科会を閉議する。

散会 ~ 12 : 18